

専門学生が水道PR手法プレゼン

横浜ウォーター 産・官・学が3者連携で

横浜ウォーターは茨城 4回のセミナーを通して 県城里町、水戸市の専門 水道事業の現状や課題を 学校・文化デザイナー学 学んでもらい、同世代へ 院と3者連携による若年 に向けた「水道の将来ある 層向けのセミナーを実施 べき姿」の発信者となっ した。国土交通省から同 てもらうことを目的とし 社が受託した「水道事業 ている。

セミナーは「インプッ セミナーは「インプッ の2段階で構成した。イ 及びセミナー企画運営業 ト」と「アウトプット」 務」によるもので、同学 ンプットとして水道事業 院の広告プロモーション の基本的事項や経営、歴 学科地域デザインゼミの 3年生17人を対象に、全 史、課題等について横浜



どのチームも実践的なPR手法を提案した



城里町の浄水場見学も

てワークショップ形式で 討論し、知識や考えを整 理するとともに、学生が 自分の意識の変化を再確 認。インプットの内容を 踏まえて同世代へのメッ セージを制作物として表 現し、さらにそれを伝え るPRの具体的手法をと りまとめた。

さきごろ開催した第4 回セミナーでは、これま での集大成として、学生 たちが考案した新たな水 道PR手法についてプレ ゼンテーションを行っ た。官民双方から水道事 業のレクチャーを受けた 学生デザイナーたちの提 案は、若者ならではのイ

デアに富んでいるだけ でなく、「実際に広報を 行う人々」の目線を反映 させて財源の確保等にも 切り込んだ具体的かつ実 践的なものとなった。

PR手法の検討は、4 チームに分かれて行われ た。チーム1は浄水場を 舞台とした有料の体験型 イベントを企画。参加者 は水の一粒となり、着水 ション動画等を通じたブ ランド設定により「城里 アースデイとの連携や日

ランを構築している。 チーム3は水道管の老 朽化問題への啓発を目的 として、管路更新時に掘 り出された水道管を灯籠 へアップサイクルする体 験型イベントを提案し た。鉄管や塩ビ管といっ た水道管の廃材を、参加 者が自ら洗浄、錆取り、 穴あけ等の加工を施し、 灯籠アートとして再生す る。企画案ではさらに、

チーム2は施設能力と 水需要のギャップによつ て発生する余剰分を活用 した化粧品開発・販売 を提案。キャッチコピー やロゴマーク、パッケー ジデザイン、プロモー ション動画等を通じたブ ランド設定により「城里 アースデイとの連携や日

チーム4は水道事業を 城キリスト教大学と連携 したセミナーを開催して いる。 久保田裕史・横浜 ウォータープロジェクト 統括部長の話：若年層の 水道事業の理解促進と ともに、「若者から若者へ」 の新たなPRのアイデア を期待したもの。業界の 義で伝えた内容を適切に 理解してPR手法に反映 しており、期待以上の結 果になった。産官学が一